

平成 31 年 2 月 22 日

平成 30 年度東洋学研究情報センター機関推進プロジェクト実施報告書（項目 1～6）

1. プロジェクト名

ラジャブザーデ文書コレクションの研究

2. 申請研究者

森本一夫 西アジア部門・教授

共同研究者

ハーシェム・ラジャブザーデ、江浦公治（ともに定年退職後のため所属なし）

3. 研究期間平成 27 年 7 月 23 日から～平成 31 年 3 月 31 日（4 年間）

4. プロジェクトの趣旨、全体計画（400 字程度）

ラジャブザーデ文書コレクションとは、旧大阪外国語大学ペルシア語学科で長く教鞭を執られ、イラン史、日本・イラン関係史などの分野で顕著な業績を残してこられたハーシェム・ラジャブザーデ博士の私蔵にかかるイランの文書コレクションである。おおむね 19 世紀前半以降の数百点の原文書を含む極めて貴重なコレクションである。ラジャブザーデ博士は当コレクションの東洋文化研究所への寄贈を申し出ておられ、将来的には東洋文化研究所に所蔵されることになる。

当プロジェクトは、ラジャブザーデ文書コレクションに含まれる文書群を主題にもとづいて整理し、特に重要な文書に関しては、さらに翻刻・研究および写真版の刊行を行うものである。ラジャブザーデ博士、これまでもラジャブザーデ博士とともに研究を進めてこられた江浦公治氏、および東洋文化研究所の森本一夫が中心となって推進する。主題別に毎年 1 冊の研究成果の完成・公刊を期す。

5. 今年度の研究実施状況（400 字程度）

平成 30 年度は、平成 29 年度に大半の準備作業を行ったセンター叢刊第 27 輯『カージャー朝期イランの社会関連・司法関連文書』を刊行した後、農業用水関係の文書集成を作成する作業に注力した。主として電子メールで連絡をとりながら関係する文書を整理し、読解を進め、特に重要な文書を選別した上で、その翻刻作業と写真版の作成を行った。翻刻作業に当たっては、第 22 輯以後の 3 冊のセンター叢刊に寄せられた指摘を踏まえ、昨年度よりもさらに高い精度でテキストを作成すべく努めた。なお、本研究はペルシア語原文書に関する先端的な特色ある研究活動として特にイランで大きな注目を浴びており、年間を通して既刊の叢刊 3 冊についての引き合いを受けてきた。それらの送付を通じて、日本のイラン研究にとって重要なイラン国内諸機関との間の研究ネットワーク構築にも寄与している。

6. 今年度の研究成果の概要（400字程度）

平成30年度の研究成果として、ハーシエム・ラジャブザーデ編著；江浦公治協力；森本一夫序文『ガージャール朝期イランの農業用水関連文書』（ペルシア語文書集成、6）をほぼ完成させることができた。内容的にはすでに完成しており、現在版下を作るための形式面での作業を進めているところである。本書は、99点の文書の写真版とその翻刻を、それらが扱う案件にしたがって分類しつつ呈示した書物である。センター叢刊第22輯、第25輯、第27輯に続けて本書が刊行されることにより、ラジャブザーデ文書コレクションに含まれる文書群へのアクセスはさらに容易となり、19世紀を中心とする時期のイランの農村経済史、地域社会史などに関心をもつ国内外の研究者に裨益するところ大となろう。なお本書は東洋学研究情報センター叢刊の1冊として平成31年度の早い時期に刊行される予定である。